

大阪府支援教育研究会 60周年記念研究大会

参加された方のアンケートから

(各分科会の感想など おもなご意見)

第1分科会 高等学校におけるともに学び、ともに育つ教育の実践

- ・ 中学校卒業後の高校での学習の様子がよくわかった。
- ・ 松原高校の中川先生の発表は、テーマ・アプローチ・アセスメントなど学ぶべき点がたくさんありました。小・中・高・支援学校の全てで今日共通する内容だと思います。
- ・ 異校種の発表が聞けてよかった。各校の先生方の生徒たちへの思いがよく伝わってきました。
- ・ 資料だけではわかりにくい部分についても、それなりに答えていただけた。各校とも、しっかり取り組まれていることや、苦勞されていることがよくわかりました。
- ・ 今回の発表を聞き、子どもたちの自立に向けて、小学校では何を大切にしていかなければならないかがわかりました。障がいの特性については理解が進んできていますが、長いスパンを考へての教育のあり方を聞かせていただきました。
- ・ 枚岡樟風高校の「ウチの生徒」、松原高校の「他の生徒とかわりない」、西成高校の「ほんとにみんな一緒に勉強してるんや」。共生教育の肝だと思います。障がいのある生徒を他の生徒と「分けたがる」教員が多い中、本当に心強いことと感じました。
- ・ 枚岡樟風高校の生徒の卒業後の社会に出たからの職場実習が、まるで専門学校のように本格的で、プロを育成するかなのような学習風景で、キャリア教育の取り組みがすばらしかったです。
- ・ 松原高校の発表では、生徒一人ひとりを大切に接している姿や熱意がよく伝わってきた。
- ・ 中学校卒業後の進路指導をする上で、大変参考になりました。自立支援コースや共生推進教室がどのようなものなのかを本日おぼろげながら知ることができました。
- ・ 小学校の教員をしているが、子どもたちの進路がとても気になっています。中学校まではイメージがわくが、その先はどうなるのかわからないことだらけでしたが、今日、現場の先生方の声が聞けて、少しずつもやがはれていくようでした。
- ・ 支援学校だけでなく、一般の高等学校での障がいのある子どもたちへの取り組みがよくわかりました。気になっていた質問にも、本音を忌憚なく話して下さって安心しました。
- ・ 通常の高校への進学が大変増えてきています。しかし、合格するだけでなく、当然、楽しく高校生活を送り就職を希望します。高校での取り組みがよくわかり安心しました。この取り組みがすべての高校に広がりますように。

第2分科会 関係機関との連携 実践報告

- ・ 障がい(自閉性)を持っている生徒が学校に来て、することがある、出来ることがある、すべきことがあるという思いを持つことがすごく大切だと思いました。教科の学力を少しでもつけることも、そのひとつかもしれませんが、別なアプローチ。それは花の水やりでも、そうじでも、手伝いでも、栽培でもいいのですが、そういう有用感の持てる活動を一つ入れることが大切だと思いました。すごくいいアドバイスになりました。
- ・ お二人の先生の熱心な取り組みに感心しました。教材などを積極的に作ったり、色々と試したり、それに対して専門家のアドバイスがうまく生かされていて、本当に連携をうまく利用しているなと思いました。本人の様子が先生達の色々なアイデアや手立てでこれだけ様子が変わるといって、やはり環境やかかわりの大切さがよく分かりました。大澤先生の支援に関するアドバイスもとても的確でやはり、はっきり「これは×」「これはがんばりましょう」と助言していただくこととで、先生の迷いがない支援につながるのかなと思いました。
- ・ 同じ高槻の教員ですが、九中でこれだけ分厚い取り組みがなされているとは知りませんでした。熱意あふれる取り組みを聞かせていただき、ありがとうございました。特に印象的だったのは、お二人の先生の目の前の“この子”を理解したい、自立に向けた支援をしたいと願いながら、課題が多く困られていました。その時に「子どもの困り感」を見抜き、アドバイスされる中で、お二人の先生の“困り感”にも寄り添われている大澤先生の姿に感銘を受けました。大澤先生が、いろいろな子の理解するための鍵をどのようにして見つけ出されるのだろうかと思いました。また、お二人の先生が大澤先生のアドバイスに真摯に向き合い、自分の見方や支援の仕方を柔軟に変容させている姿に、目の前の子どもをなんとかかしたいという熱い思いを感じました。今日は多くのことを学ばせて頂き、ありがとうございました。
- ・ 大阪自閉症支援センターの活動にとっても興味をもちました。また、センターにペアサポートを依頼した高槻市教委にも感心しました。
- ・ 関係機関との連携の先の子どもの姿が本当によく伝わってくる発表で、この分科会に来てよかったです。
- ・ パワフルな実践のお話に夏休み明けのエネルギーをいただきました。
- ・ 実践報告者2人の発表、そして大澤先生のコメントに目の前の子どもに、まっすぐ向き合っていくことの重要性を再確認。元気が出ました。1人では…ぶつかる壁を乗り越えられなくても、チームとしてやっていくこと、そして適切なアドバイスをもらって、いっしょに考えていくこと、大きな力です。
- ・ 中学校支援担のお二人のお話から、大きなパワーを頂きました。T君の前でくやし涙を流された稲岡先生の赤裸々なお話、その誠実さに、胸をつかれる思いでした。励まして頂きました。ありがとうございました。

- ・ 私自身、数年前にペアサポートでの御指導をいただき、大変ありがたかったと実感しています。高槻のリーディングチームの先生方のアドバイスは具体的で、日々の指導に取り入れられるように指示いただきました。アクト大阪との連携は自閉の子どもを前に不安をかくせずにいる私を前に、保護者の信頼の基になったこと確信しました。子どもを真ん中に、校内と校外の機関、保護者が手をつなげることは、本当に必要なことですね。まとまらない感想ですみません。I君T君の小学校時代をみてきた私には、とてもステキな成長した2人を感じられる報告でした。ありがとうございました。
- ・ 具体的実践の報告がすばらしかったです。自閉症センターのアドバイスを的確にとらえ、そのアドバイスにそって実践された姿勢に感服しました。自分もがんばらねばと思いました。
- ・ ペアサポート事業を受けて取り組まれた中学校の実践がとても具体的で分かりやすかったです。とても熱意あふれるお話でした。ありがとうございました。
- ・ 中学校の実践をもとに、自閉症支援センターとの連携の意義を論理立てて聞いてよかったです。
- ・ 具体的な取り組みを通して、新しい環境に慣れず困っていた子どもたちが落ち着いて自立して活動できていく様子がわかってよかったです。「全て理由ある行動」という言葉が心に残りました。
- ・ ペアサポートというシステムで支援体制が整い、それを実行に移し、行動が安定していた様子がよく分かりました。
- ・ 発表、講演ありがとうございました。高槻九中の2人の生徒への支援、本当に感動しました。特性にそった支援をしっかりとされており、とても勉強になりました。学校だけでは、どうしたらよいか分からなくて行き詰まった時、ペアサポートで専門家の方からの、その子の特性に応じた適切なアドバイスを受けられることは、とてもありがたく、頑張っって支援していくことができます。

第3分科会 発達障がいのある子ども理解と具体的支援

- ・ 具体的に保護者の方や先生が1人の子どもと関わったうえで、こうしたらという支援の方法をアドバイスして頂けたことは、イメージしやすく参考になりました。
- ・ 発達障がいのある子どもへの具体的な支援方法などを、分かりやすく教えていただき本当にためになりました。また、実際に保護者の方々のお話を聞くことができ、「その子」の理解を進めることの大切さを学ぶことができました

- ・様々な校種の先生方に具体的な話を聞かせて頂けて有意義でした。保護者の方の生の声（思い）が聞けて良かったです。
- ・障がいがある、ないは、関係なく、一人ひとりの子どものニーズに寄り添える関わりが大切だと改めて感じました。
- ・保護者の方々の発表があるとは思っていなかったの、びっくりしました。保護者の方々に拍手です。
- ・小学校の先生が保護者の方と一緒に取組んでいらっしゃる姿を見せていただき、中学校として同じスタンスで取組んでいけたらきっとその子どもにとっても、保護者にとってもよりよいものになっていくのかなと受け継ぐ中学校として感じた。
- ・学校以外の時間帯の過ごし方など、保護者の声を聞くことができよかった。
- ・特に浜崎教頭先生のおはなしを興味深く聞かせていただきました。保護者の方々のおはなしをもりこんで下さり、とても参考になりました。また、保護者の方々のおはなしは自分自身の生き方を見直すきっかけにもなりそうです。
- ・「特別支援教育」について、再度認識を深めることができました。様々な立場からのお話を聞けて、本当に参考になりました。特に保護者の方のお話は、心に深くひびくものがありました。私はそういった保護者の方の思いを、真剣に受け止めてこれていただろうかと、反省する場面もありました
- ・これまで、保護者の方のお話を公の場で聞いたことがなかったので、とても興味深かったです。悩み、苦労もしながら、前向きに子育てをしてこられた話に、頭が下がります。また別の機会にも、保護者の方の話を聞きたいと思いました
- ・具体的な支援を聞かせていただき、当校の在籍児を思い浮かべ納得する私でした。でも、一部分だけで「その子」への支援を構築しており、日々の観察、適切な対応が必要だと感じました
- ・富秋中学校の実践報告について今後の課題がよく分かってきた。学校の乱れや子どもの問題行動の背景に、発達課題があることが多く、小学校ではかなりそれに向き合っているが、中学校ではまだまだ生徒指導と支援教育の課題が共にない現状があること。富秋中学校は、まさに、その2つの課題を融合させて、学校全体の取り組みにされて、大変勉強になった。チームで前向きに取り組まれているところに好感を持てた。チームワークの大切さを再認識できた。
- ・（3つめの発表で）支援教育の視点からの生徒指導というお話がとても興味を持って聞けました。チームとして取組んでいくことの大切さがよくわかりました。
- ・富秋中の状況とよく似た環境の小学校に勤めたことがあり、「荒れ」と取り組みました。「環境を整える」「一人ひとりをていねいに理解する」「成功感を持たせる」「肯定的に」というキーワードは、その取り組みと同じだなあと感じました。
- ・富秋中学校の実践を聞き、校内全体で共通理解のもと取り組まれていることが、素晴らしいなと思いました。全職員の共通理解の難しさを感じています。

- ・ 3つ目の報告で、荒れていた学校が、職員一致してユニバーサルデザインの授業を取り入れ、学校が落ち着いてきたということはとても参考になりました。
- ・ 保護者3人の方と先生が連携して、豊かに楽しく取り組まれていたのが素敵でした。
- ・ つながっていくことの大切さを改めて思いました。「つながり」を作っていくのは大変ですが、やっていく必要を強く思いました。
- ・ 中学校の事例は少ないので、もっとお聞きしたいです。保護者の方の話はとても良かったです。苦勞されていることなども聞ければ、参考になります。
- ・ 中学校の内容は小学校につながるものがあり、先生方の謙虚な姿勢に感動しました。
- ・ 家と学校以外の場所に行くことなどについて、教職員と保護者のつながりや連携、情報の共有をどの程度、どのようにしていくことが有効なのか少し気になった。
- ・ 障がい理解をベースに「その子」理解を進めていっしょの現状がよくわかりました。自分の子だけを見る目からまわりとの係わりを見つめて、変わっていったのがよくわかりました。
- ・ 一本目 早野さんの報告・・・多くの経験に基づき、大変わかりやすかった。
二本目 三人の保護者の方の体験が生で聞けて良かった。
三本目 富秋中の報告は、モデルルームやユニバーサルデザインの授業づくりなど、様々な具体のどの子どもにも取り組める内容で、よかったと思います。
- ・ 今現在、小学校の支援学級担任をしており、関わっている児童のほとんどが発達障害の子どもたちです。今日の分科会での講演を聞いて、自分は今まで支援できていたと思っていたけれど、子どもや親の身になって支援できていなかったと反省しました。児童一人ひとりに沿った支援ができるよう、今日の講演で学んだことを活かしていきます。
- ・ 学校内体制とそれぞれの先生方とのつながりがききたかったです。
- ・ どんな児童がどんな成長をしているのか知れてよかった。同じ障がいだからといって、同じ症状だと判断するのではなく、あくまで知識として持つておくのがよいと感じた。
- ・ 保護者の方の「視野の広がり」「いろんな人とのつながり」を聞いて、支援担を振り返り、いろんな子に出会えて、その事で知った事、感じた事が沢山ありました。子どもは保護者だけでなく、教師にもいろんな事を広げてくれると思いました。
- ・ 困った生徒→困っている生徒 教師の見方（教師中心）でなく、生徒の立場（生徒中心）を基本に考え、実行していかないとはいけませんね。
- ・ 保護者と保護者、保護者と教師がつながることの大切さ、つながることからわかることが沢山あることを知りました。
- ・ 印象に残ったことは、「できないことを注意するのではなく、できることを認める。」ということと「障がい理解とその子理解」という事でした。支援学級担任として、この視点を大切にしたいと思いました。
- ・ 障がい者理解を通して、学級・学校全体の指導につながるることの大切さを知らされました。何よりも「歩み寄る能力があるのはどちらか？」という言葉は印象に残りました。

- ・ユニバーサルデザインについて、具体例を多く示してくれました。私の学校でも取り入れて参りたい。
- ・具体的な板書や写真を入れたパワーポイントがとても分かりやすかったです。資料として冊子でいただけるのも、今後活用できるのでありがたいです。
- ・発達障がいという概念は最近よく聞きますが、今日の講演を聴いて、改めて、個に応じた取り組みが大切だと思いました。9月から子どもたちとの日々に向けて、「こんなこともやろう」「やっぱりあれもやろう」と背中を押され、また、こんなこともできるのだなとやる気をいただきました。ありがとうございました。
- ・チーム支援という言葉、幼小中連携という言葉がたくさんでできますが、もう少し掘り下げて内容をお聞きしたかったです。チェックリストを用いて、どのような効果が合ったのか、課題は何か？
- ・授業、教室の環境の改善は支援学級の生徒だけでなく、通常クラスの生徒も集中力や心の安定につながるんですね。もっと意識して環境づくりをしたいと思います。
- ・うまくいくことばかりでなく、うまくいかなかったこと（二次障がいなど）も含めて交流できたらよかったです。
- ・支援学級ではできても、通常学級では定着しない様々な教室環境・・・コーディネーターとしてしっかり伝えていく必要があるとずっと思いながらなので、改めて考えていかなければと思い直しました。「なんだか楽しいなあ～」と思える手だてを考えているという、保護者の方の言葉に大きくうなずけました。
- ・スローモーションで動く練習をまた学校でもやってみたいと思います。早野先生はまだまだ、引き出しがありそうなので、今度はもっと一部分をほりさげた具体的なお話も聞きたいです。浜崎先生はとても落ちついた声で、なんだかその声を聞いているだけでも関わってもらった子ども達は幸せだったんだろうなと感じました。保護者の話で「この子がいてよかった」という言葉を聞けると、自分が関わったわけではなくてもうれしく感じます。「その子理解を深める」大切なことだと思います。中学校の大変な努力と苦勞のお話を聞かせていただき、身にしみる思いで聞いておりました。アスペルガーが中学校になってから発覚したというのは、小学校の責任を感じます。早めに気づき、早めにアプローチしてあげるのが大切だと改めて感じます。中学校がよくなっているということで、先生方の力に頭が下がる思いです。
- ・前向きな親の生き方、それは我が子 **only** ではなく、他者との関わりから客観的に見れ、認める気持ちに変わっていくことがお話を聞き理解できました。中学校の実践、心がほっこりしました。ピンチはチャンスにしていけないといけないですね。

第4分科会 「個別の教育支援計画」の作成と活用

- ・すごく参考になりました。自分の教え子が高校受験をひかえて、相談の電話があったりなどうまく答えてあげられずにいます。現在の職場で、まず職員間の共通理解がなかなかできずに困っています。保護者の方だけでなく、職員にも話を進めたいです。
- ・内容は、興味深くなるほどと思わせられるものばかりでした。でも、この実践を全員となると… 具体的に個別の教育支援計画、教育指導計画の例が見られると期待していたのですが、それが見られなくて残念でした。
- ・ケース会議の充実という話はよく分かりましたが… 20数名の会議をどうやって？と思いました。正直な感想です。
- ・個別の教育支援計画のことを改めて考えさせられることばかりでよかったです。
- ・具体的な内容の講演、ビデオもあり、とても参考になりました。私は支援学校の高等部ですが、一般校での状況をお聞きでき、良かったです。
- ・個別の教育支援計画、個別の指導計画について、何となく知識は持っていましたが、今回の講演を聞かせていただき、記入の仕方、会議の持ち方など具体的に分かりやすく大変参考になりました。2学期からさっそく実践できるよう、今回の資料をもう一度読み直し、振り返りをしたいです。ありがとうございました。
- ・とてもわかりやすく良かったです。ホワイトボードの活用、さっそく実践したいと思います。あと、高校の支援体制についても十分理解できました。
- ・自尊感情がキーワードになっていました。やはり、どの子どもにも自尊感情が大切だと再確認できました。
- ・話の内容がとても分かりやすく聞きやすかったです。ワークの時間があって実際にできて勉強になりました。
- ・パワーポイントがとてもわかりやすかった。a、P、C、A会議を学校で実践していけると、すごく子どもたちに寄り添えると思った。時間など学校全体でどう行っていくかアクションを起こしていきたい。
- ・高等学校の様子を聴く機会があまりないので、貴重な発表でした。ありがとうございました。支援学校の先生の企画もたいへん具体的でわかりやすかったです。
- ・個別の教育支援計画、個別の指導計画を立てる具体的な方法がよく分かりました。
- ・日常、市内の研修では、小中間の交流になるが、高校や支援学校の話を書くことができ参考になった。
- ・ホワイトボードを使ったケース会議が参考になりました。どのように書けばよいのか、イメージがわかりました。
- ・今日の話をもとにケース会議に職員を巻き込んでいきたいです。

第5分科会**学校におけるICTの活用**

- ・若い教員に目を向けた話が、とてもためになった。
- ・具体的な事例が多く、とても役に立った。
- ・授業で「どう使うか」生徒に「どう使えばコミュニケーションを取れるか」など、色々勉強になった。
- ・ICTはツールの一つであり、生徒にあったように使わないといけないことが良く分かった。
- ・次の指導要領改訂の時には、ICTの導入が奨励されると感じた。今は、パソコンの学習アプリ（Yahooキッズなど）だけを使っていて、こういう学習ソフトを使っているのかと、いつも迷っている。ICT支援により底面積を広げるためには、(坂井先生談) 教師の技術力（発想力）を磨いていかなければと痛感した。本日の資料「発達障害教育情報センター」にもアクセスして、情報収集し勉強していきたい。
- ・ICTを使うことが目的ではなく、子供に身につけさせたい目標があって、それを達成するためのツールとしてICTの活用を考えていかなければならないということに気づいた。
- ・支援のあり方や具体的な方法について、新しい見方を教えてもらった。
- ・ICT活用ということで、いかにしてICTを現場で使っていくかという話だけでなく、子どもの視点を重視した話もたくさん聞け、今後の指導に役立てそうで良かった。
- ・ICT機器を何のために使うか、その意味を自分に問い直すきっかけを与えてもらった。
- ・ICT機器をうまく使えば、可能性がたくさん広がるなあと思う。でも、使うことが目的でなく「何のために使うか」「これを使えば、この子がどんなことができるのか」「どんな力を伸ばせるのか」など使う教師がしっかり考えなければいけないという話が印象に残っている。私も使うことが目的になりがちになってしまうので、気をつけたい。「あっちの世界」という言葉があったが、私は「あっちの世界」を推測できているかと、再度考えさせられた。
- ・3人の講師の方のお話は、話題がそれぞれ違っていたが、ICT活用の問題が持つ側面をそれぞれ言い表していたと思う。
- ・午前の話と午後からの話が、とても関連していて良かった。
- ・朝の講演、昼からの分科会ともに長期的な支援、卒業後を見越した支援の大切さがキーワードになっていたと思う。「キャリア教育」にしても「ICTの活用」についても、その言葉を狭義に捉えるのではなく、もっと広くそして繋がりを持った言葉として捉えなければならぬと感じた。分科会は3時間と長時間でしたが、とても短く感じた。
- ・ICTを使うことで、多くの支援が可能になることが分かった。

- ・私はどちらかというところICTの活用とは、どういう方法があるんだろうという立場だったが、できる範囲でアイデアとともに取り入れていく、一つのツールとして捉えておくことで良いということ、今日は習得した。
- ・ICTを活用することが、目的になってしまってはならないということが強く印象に残った。子どもの理解があったうえでのICT活用なのだということ、再認識できた。
- ・ICTについて色々な角度からの考えを聞いたことが良かった。できれば、具体的な活用例をもう少し聞ける時間があればありがたかった。
- ・10年後ということだったのですが、今使っていること、これからどう使えるかなど、具体的な話ができれば良かった。竹島先生の保護者としてのお話は、参考になった。

第6分科会 特別支援教育におけるキャリア教育

- ・作業学習と職業教育の違い
何となくしか分かっていませんでしたが、基礎基本を身につける学習と職業に必要な力を身につけることと学校で行っている内容を振り返りたいと思った。
- ・キャリア（教育）の定義として、永松教授の説明にあった、キャリア教育を広義～最狭義で考えると分かりやすかった。
- ・亀平先生のお話を伺って、午前の全体会でも言われていた「得した感じがする」と同感でした。障がいのある人のことだけでなく、誰にでも通じる必要なことが確認できたと思います。夏休みを終えたら、今までとは少し違った言葉かけを生徒にしてみようと楽しみにしてきました。本日はありがとうございました。
- ・全体会とリンクした内容であり、興味深く聞かせて頂きました。就労に向けて、我々教師がどのように気づき、その手順などを理解し、伝えていけるかという力がとても大切であるということ、教えて頂きました。
- ・亀平先生の講演内容はとてもわかりやすく「そうか～」とうなずけるところがたくさんありました。とても参考になりました。
- ・亀平校長先生のお話から、特別支援学校の職業教育のあり方が、いかに甘く考えているか！が認識できました。内部にどっぷりつかっていると見えていなかった、見ようとしなかった部分を気づかせていただきました。持ち帰って早速出来るところから変えていきたいと思えました。ありがとうございました。

- ・不登校児童の支援加配教員として仕事をしています。学校に通っていない生徒にとって将来、自分の力で生活していくためには、今、何をすればいいのか…。日々の活動がキャリア教育の視点に立ったものであるようプログラムするのが、私の課題、仕事だと思っています。その中で、自立に求められる5つの基本的な力「健康管理」「生活習慣」「コミュニケーション力」「対人関係、ルール」「自分の好みを知り、力をつける」は、今後いつも意識して、取り組みの中でチェックしていきたいと思いました。
- ・「小・中・高等学校の職業観・勤労観を育むプログラム」は抽象的で何をどうしたら…と思いましたが、特総研の資料は、具体的で取り入れやすいと思いました。「社会的コンピテンス」は「???」でしたが、まわりがどのように対応するか、他者理解の学習プログラムや違いを認める教育の重要性を感じました。
- ・亀平先生のお話に子ども自身が「気づく」機会がないと自発的な活動は望めない、というのがありました「その通りだ」と心の中で深く頷いてはいましたが、子どもたちに「気づかせる」ような取り組みを自分自身ができているのかと考えました。子どもに「気づき」が生まれるようなしかけをこちら側でできるよう、これからも考えていきたいと思います。
- ・支援学校におけるキャリア教育を考えるよい機会となりました。

※参加された方へ

アンケートに貴重なご意見ありがとうございました

基本的に書かれた文章そのまま転載しましたが、語句など一部の表現を変えさせていただいている場合もあります